

西小倉めぐみ教会通信

発行者 日本キリスト教団 西小倉めぐみ教会

〒611-0042 京都府宇治市小倉町西浦33-36

Tel&FAX 0774-20-3071 <http://www.n-megumi.com/>

「一匹の羊」

牧師 倉橋 剛

主の御名を賛美します。私たちの教会は、ひきこもりの青年達の居場所（フリースペース）「おやすみ」を行っています。一番大きな動機は、わたしの子どもが不登校、ひきこもりを体験したからです。この「ひきこもり」という現象、我が子や身近な人がならなければ中々分からない現象でしょう。ともすると、甘えや怠けではないかと、表面的にだけ捉え一方的に非難したり責めたりしがちです。しかし、ひきこもっている当事者たちの多くは、家族以上に強い不安や焦りを感じているものです。社会や家庭、対人関係の中で思うように振る舞えない自分をとても恥じたり、劣等感にさいなまれていることも少なくありません。「ひきこもりのままで良い」ところの底から割り切っているわけではありません。

「自分でも何とかしたいけれど、自分の力ではどうにもできない」、当事者の気持ちの奥に、このような葛藤や苛立ち、無力感があることをぜひ知っていただきたいのです。

フリースペース「おやすみ」にやってくる彼、彼女らもそれぞれ心に傷を負い、日々の生活をしていくのに立ち止まって、ひと息入れないと、自分を保てないという状態です。Aさんは、自分の中に弱さを感じ、でもその弱さを他者に感じ取られないために、服装や、表情にも気を使っているとのこと。他の居場所へ行っても、すぐに就労の話が出てきて、自分のスピードに中々合わず、かえって今の自分を責められているようで辛いと言います。Bさんの場合は、中学・高校でひどいじめに合って学校に行けなくなり、丸7年全く家から出られなくなりました。今ようやく少しずつ休憩を取りながら通信制（ひんかんもく）の大学で学び始めました。Cさんの場合、全緘黙で今まで会話となるような言葉を聞いたことがあり

ません。トラウマ（心の傷）やストレスが原因と言われています。Cさんは、いつもゆっくりとアニメ雑誌を読んで過ごしていて、もうすっかり「おやすみ」の大切な仲間です。

ひきこもりの最初の徴候が、思春期・青年期の若者にみられやすいのは偶然ではないでしょう。この時期、若者たちは、自分や周囲の大きな変化の波に揉まれながら「本当の自分らしさとはどのようなものなのだろうか」、自分はこれからどのように生きて行けば良いのだろうか」と、自分らしい生き方を求めて暗中模索します。自分への関心が高まり、周囲からの評価に対しても敏感になるため、いろんな意味で葛藤や混乱を抱きやすくなるのもこの時期の特徴です。

ひきこもりは、この“自分探し”をめぐる課題を前にして、立ちすくんでいる状態だということもできます。ひきこもっている多くの人が、社会の中で自分の位置づけを見いだせず、他者との絆に不安を覚えていて、その中へ身を投じることをためらっているのです。確かに、このような拠り所のない状態のままで社会に参加することは、想像以上に怖いことでしょう。

イエスさまは、100匹の羊のうち1匹が迷い出てしまったら、99匹を置いて迷った1匹を探さないだろうか、とおっしゃっています。ひきこもりの若者も、ある意味で迷い出た一匹の羊ではないでしょうか。私たちも、キリスト者としてマイノリティ（少数者）を大切に、決して無視することなく、イエスさまに導かれて、この日本社会で苦闘されている少数者と共なる歩みをなしていきたいものです。

在 主

2013年下半期・教会のあゆみ

<みんなでクリスマス・イブを！> 2013年12月22日

毎年ゲストの方を迎えて開催しているクリスマス・イブ礼拝。今回は、福島県出身で、東日本大震災で被災されて京都に避難してこられた西山祐子さんをゲストに迎え「福島とともに」をテーマにお話を聴きました。西山さんは、「避難者と支援者を結ぶ京都ネットワーク みんなの手」の代表をされ、避難者相互の交流や、福島に残っている方々との交流、支援者との交流に尽力されています。大震災当初なかなか真実が知り得なかったこと、見えない放射能と向き合ってきたこと、帰還の目途が見えない状況の中で、元の当たり前前の生活を取り戻したい思いなどを熱く語られました。この紙面では言い尽くせない共感を覚えました。この共感を大切に、被災者の方々と共に生きる姿勢を持ち続けたく思います。



<片山 操さん 91歳で召天> 2013年11月13日

当教会員で、門戸幸子役員の母である片山操さんが召天しました。片山さんは福井県大飯町に生まれ、長年にわたり民宿を切り盛りされてきました。70歳を前に引退された後、教会に行き始め、79歳の時に受洗されました。それに先立つ75歳の時に脳梗塞を起こされた後も気丈に生き抜かれました。11月15日に家族葬を行い、その日のうちに城陽霊園にある当教会の墓地に納骨されました。神様のみ元での魂の平安をお祈りいたします。

<門戸幸子さんからのメッセージ>

1人の女性として、その人生は波瀾に満ちたものでしたが、気丈さと心棒強さと、自分自身に対する頑固さで、大正、昭和、平成と激動の時代を生き抜いてきた母の人生を思います。そんな母が病に倒れ、病床の中で洗礼を受けたのが79歳の時でした。晩年はクリスチャンとして神様と共にある感謝の日々の中で、穏やかに時を過ごし、神様の元に召されました。母にとっても私にとっても本当に幸せなことでした。

<宗教法人化に向けて……法人設立総会を開催> 2013年11月17日

当教会が掲げる宣教の課題のもと、今後も安定的に継続して活動を続けていくため、2010年度の教会総会で宗教法人化の準備を進めていくことを決議しました。それから3年以上をかけて、所管の官庁との協議や登記の準備等が整い、この日宗教法人「日本基督教団西小倉めぐみ教会」設立総会が開かれ、今後の当教会のあり方等について熱く議論した後、法人設立について全員一致で可決しました。今後さらに、認証や法人設立登記などの手続きを進めていきます。

<石井雄一さんが受洗> 2013年12月1日



しょうがい者の作業所に通っておられる石井雄一さんが、信仰に導かれ、この日受洗されました。石井さんは、自身の思いを「怪獣」に語らせる形で絵に描き、その作品集を出されています。そして、受洗に当たっての思いを、この絵にされました。絵の中に書かれているメッセージは次のとおりです。

「僕は言葉の花を育てる。僕の考えた言葉がどんどん大きくなって忘れられないものになるんだろう。きっとだれかのための言葉になるんだろう。」

<トピックス> 団野利男さん またも わたぼうし音楽祭に入選

何らかのしょうがいのある人たちが作った楽曲を発表する場として、今年で38回を数えた「わたぼうし音楽祭」。当会員の団野利男さんが作詩・作曲した「箱折り」が、作詩・作曲の部で8曲の入選作の1つに選ばれました。利男さんは、第34回（作詩の部）、昨年年第37回に続く3回目の入選です。今回の作品は、しょうがい者の作業所での労働の場面を歌にしたものです。お連れ合いの明日香さんも過去2回の入選を果たしており、ご夫婦ともに、人の心に響く表現が評価につながっているのでしょうか。これからも応援します。

「箱折り」 作詩・作曲：団野利男

一つ折り上げれば二円の工賃 お菓子を詰めて売る箱を折る仕事
頭にネットをかぶって 白い手袋をはめて
このお菓子を買った人は 箱のことどう思うだろう
機械なんかで折ったんじゃないよ
一つ一つ大切に 人肌のぬくもりで折り上げたんだ

時間が経つにつれて早くなる まるでロボットのように人形のように
折り損じしないために ピンと張りつめた空気
この箱を開けた時に 何か感じてくれるかな
綺麗な箱だとしておいてくれたら 嬉しいのだけれど
美味しいお菓子のために 心を込めて折ろう

機械なんかで折ったんじゃないよ
一つ一つ大切に 人肌のぬくもりで折り上げたんだ



「わたぼうし音楽祭」「箱折り」についてのお問い合わせは以下まで 〒
600-8044 奈良市六条西3-25-4 奈良たんぼぼの会 TEL：0742-43-7055

「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援のお願い

主の御名を賛美いたします。

西小倉めぐみ教会は、1981年の創立以来、社会の中で小さくされた人たち、貧しくされた人たち、しょうがいをもつ人たち、とりわけ精神しょうがい者の人たちの課題を共に負って生きること、平和を希求して歩むことを宣教の課題として歩んできました。2005年から倉橋剛牧師を迎えた後も、その基本姿勢に変わりはありません。

不登校・ひきこもりがちな青少年の居場所「おやすみ」や、年齢制限のない居場所「のんびり」、地域の方々と歌を通じて交流する「歌ごえ」など、ささやかながらそのような基本姿勢のもとに取り組んでいるものです。

同教会では、教会に集う人たち自身が精神しょうがい者であったり、その家族に精神しょうがい者がいる人たちが多くを占めています。弱い立場にある人たちが多く集う教会ゆえに、教会員による精一杯の献金にもおのずと限界があるところです。

そのため、倉橋牧師の謝儀に対し、京都教区宣教連帯の制度から援助を頂き、さらに全国の皆様から「西小倉めぐみ教会を支える会」に献金をいただき、なんとか牧師家族の生活を支えてきました。同時に、教会の支出の見直しを重ねるとともに、牧師家族には様々な面で生活を切り詰めていただく等の努力をしていただいております。一方で、教区の財政状況も厳しく、現行の宣教連帯の制度も見直しが検討されているところです。

そんな厳しい状況にあっても、小さく弱い群だからこそこの教会が神様から与えられた使命を果たし続けるため、現在進めている宗教法人化の手続きを通じて教会の基盤を強化すると共に、同教会の社会的はたらきをより広く知ってもらうための発信を続けたく思います。

そのようなこの教会のはたらきと、厳しい経済的事情にどうかご理解をいただき、「西小倉めぐみ教会を支える会」へのご支援をいただきたくお願い申し上げます。 2013年 12月

西小倉めぐみ教会を支える会 代表 山下茂雄（醍醐教会牧師）

今までに御献金いただいた方のお名前（敬称略・順不同）2013.6.17~2013.12.22現在

鴨東教会 宇治教会すみれ会 君村千代子 佐藤嘉子 難波 巧 川上 信 大江野の花教会
竹内富久恵 千歳教会 長岡京教会 難波幸矢 久が原教会 今井牧夫 安達太郎・美千子・百花
箕面教会 静岡草深教会 池田五月山教会 埼玉新生教会 番町教会 田中 晁・千栄 小曾根一枝
西本 愛 杉本節子 団野利男・明日香・華保 橋本 博 門戸幸子 岩城澄子 倉橋 剛・容子
(73件 計407,300円)

支える会の会計が大変逼迫しています。引き続きご支援をよろしく願いいたします

振り込み口座番号(ゆうちょ)…00970-2-79224 (加入者名 西小倉めぐみ教会を支える会)

●教会のホームページをご覧ください！！

西小倉めぐみ教会のホームページが出来ています。まだまだ内容はこれからですが、これから充実させていく予定です。教会通信の1号から16号までも掲載しています。是非一度ご覧ください。アドレスはwww.n-megumi.comです。

また、不登校やひきこもりがちな子ども達、若者達のフリースペース『おやすみ』のホームページもあります。アドレスはoyasumi.infoです。こちらの方も併せてよろしくお願い致します。